



新潟名物 ぽっぼ焼き R2/8/13

お盆風景

お知らせ
**十三日のお盆礼拝受の際の
 お茶接待について**
 今年もお盆がやってまいります。しかし、新型コロナウイルスの収束が見通せない状況が続いています。昨年同様に安全対策の為、お参りの方全員に紙パックの麦茶飲料をご用意いたします。各自お持ち帰りになりお家でお飲みくださるようお願いいたします。

四国八十八箇所光

雲泉寺住職 神田恭真

千年以上の歴史を持つ四国八十八箇所霊場は今も参拝者が絶えることがありません。四国遍路は「同行二人」といわれ、一人であっても傍らには弘法大師様が一緒に歩いていきます。大師様ご縁の遍路の行程は約千四百キあります。この道は険しいですが、暗闇を照らす光明のように有り難いものです。私は愛媛の瑞應寺という道場で修行していたので、霊場参りの人をよくお見かけしていました。みんなそれぞれの願いを持ってお参りをします。

私は瑞應寺での修行を終えた年、家族の健康と仏法護持の願いを持ってお参りました。白衣に身を包むのが慣わしです。かつては今以上に難行であったため白衣は死に装束の意味もあったようです。私もその意味を心得て白衣を着て歩きました。お寺に着くとお灯明を上げ、お線香を上げ、納め札を納めてからお賽銭を上げて、般若心経やご本尊様の真言をお唱えします。私は一人で霊場参りを始めましたが、途中で多く

の仲間と出会いました。北海道から来ていた二人とは徳島で出会った。高知まで何カ寺かご一緒しました。遠くからでもお参りに訪れるほど四国遍路には魅力があります。地元の方々にも道すがらお茶をご馳走になったり、車に乗せてもらったり、一緒に歩いたり功德のある方々でした。お大師様は能筆の僧侶であったことから、



霊場でいただく御朱印はすべて達筆でありました。墨には書いた人の力が宿ります。八十八箇所の御朱印は直筆で有り難いです。

高知を遍路中、以前瑞應寺で共

に修行していた仲間と再会して、高知の霊場を一緒にお参りしました。彼は瑞應寺で修行中でしたが、偶々会えることになりました。瑞應寺で同じ年に修行に入った旧友でもあります。私は三年半で瑞應寺を送行しましたが、彼は熱心で五年も修行を続けていました。何年間も仏の御命もと、寝食を共にした仲間と再会できるとは思っていなかったのです。嬉しかったですし、心強かったです。しかし、この数年後、彼はこの世から旅立たれました。

仏縁の深かった大切な仲間が若くして旅立ってしまったのですが、「同行二人」という言葉を思い出して、彼が撮ってくれたこの写真も寂しくないなと思いました。時が過ぎてもう令和三年です。今でも同行に生きる法灯が冬の空の面影に立つ。彼の禅風は涅槃の地から照らす光明のように有り難いです。令3・1

住職より

唯一人徒歩での四国霊場参り、いろんな人との出会いがあったようです。私は毎日無事を祈っています。一期一会のご縁有り難し。